

## 地球立体表示「ダジック・アース」の学校における利用 Dagik Earth, a 3-D display of the Earth, in school

齊藤 昭則<sup>1\*</sup>, 津川 卓也<sup>2</sup>  
Akinori Saito<sup>1\*</sup>, Takuya Tsugawa<sup>2</sup>

<sup>1</sup> 京都大学大学院理学研究科, <sup>2</sup> 情報通信研究機構

<sup>1</sup>Graduate School of Science, Kyoto University, <sup>2</sup>National Institute of Information and Communications Technology

地球立体表示「ダジック・アース」の学校における利用について紹介を行う。「ダジック・アース」は、安価かつ持ち運び可能な地球立体表示システムであり、球形のスクリーンと通常のPCとプロジェクターを使って、簡単に地球や惑星などを立体的に表示する事が可能である。京都大学が中心となって開発を行い、小学校、中学校、高校での地球に関する理科授業での利用が展開しつつある。従来の平面による表示にくらべ、ひずみのない正確な形で地球に関するデータを見る事が出来る点と、立体表示であるため、現実感を持って見る事が出来る点が特徴である。利用が広がるにつれ、教員向けの研修での紹介、安価なスクリーン作成のための工夫、独自のコンテンツの作成など、開発者以外による展開が進みつつある。さらに、情報や社会科などの他の科目への応用も検討されている。大学研究者と学校教員、地域科学館、教育センターなどとの連携が行われており、地球惑星科学の最新の研究成果を学校の授業へ届けるプラットフォームとしても活用できると期待できる。発表では、システムと教育プログラムの紹介とそれを用いた実践例の紹介を行う。

キーワード: デジタル地球儀, 理科, 小学校, 中学校, 高校, 情報

Keywords: Digital globe, Science, 3-D